

令和6年度 遠野文化賞・佐々木喜善賞受賞者

遠野文化賞

遠野市の文化資源をいかした活動を通して、市の活性化に貢献し、その功績が顕著な人を表彰する。

【受賞者】 大橋 進（岩手県遠野市）

【受賞理由】

遠野物語研究所研究員、副所長を務め、『遠野物語』を中心に遠野の歴史と民俗の研究を長年行ってきた。令和3年度には『遠野物語』発刊 110 周年の記念に発刊された『柳田國男自筆原本遠野物語』の編集委員を務めた。令和9年度の発刊に向けて調査研究や執筆編集作業を行っている『遠野市史』では、遠野市史編さん委員長を務めるなど遠野の文化の活性化に貢献し、その功績は顕著である。

佐々木喜善賞

1 佐々木喜善賞（3点）

豊富な種類の応募作品の中から選考を行い、特に優れた作品を佐々木喜善賞として表彰する。

◇【受賞作品】 文芸「とおの絵本」

【受賞者】 近衛 はな

【講 評】

『遠野物語』の世界観を貫きながら、詩、童話、エッセイ、短編小説などを季節ごとにまとめた作品。ジャンルや文体の異なる小作品を並べ、様々な方法で異界と声のやりとりをしている様子が評価された。色彩描写やオノマトペは、宮沢賢治が描いた世界も彷彿とさせ、優れた表現力と鋭い感性を感じさせる。

◇【受賞作品】 写真「TONO_MAXIMIZE」

【受賞者】 荻野 豊

【講 評】

構成的な組写真で遠野の時空間をとらえた作品。個々の写真は距離が単一でやや冗長に感じるが、応募作は二点の作品が対になるよう配置されており、窮屈さを感じにくい構成となった。ステレオタイプな遠野像を探すのではなく、継続的に遠野に通う過程で蓄積した、出会ったモノや風景の細部による組み写真が評価された。

◇【受賞作品】 絵画「古神祭の夜」

【受賞者】 安井 敏也

【講 評】

画面の隅々まで湿り気を含んだ緊張感が行き届いた大作で、描写された空間の巨大さに圧倒される。高いオリジナリティと大画面を構成する技術力、長年の研鑽を感じさせる作風が高く評価された。

2 奨励賞 (2点)

応募作品の中で最後まで選考に残り優れた作品に対し、特別に奨励賞を設け表彰する。

◇【受賞作品】 「きぜん楽書草紙」

【受賞者】 森 玩

【講 評】

佐々木喜善全集の絵解きで、第一巻から網羅を目指す労作。今回応募されたクロッキー帳五冊は制作途上の作品ではあるが、作者自身が本作をライフワークと定め、正面から佐々木喜善と向き合っていくことを強く感じさせる。

◇【受賞作品】 「門の先のアカネ」

【受賞者】 村上 ルミ

【講 評】

手書きアニメーションの労作。死別した愛する人物との再会を願い、隔世(かくりよ)に導かれる主人公の物語。音声・音響に大きな課題は残るものの、主人公の心の機微が細部を通して表現されている。終盤にはさまざまな感情が昇華され、清涼なカタルシスのある作品世界となった。